

現在は和風住宅建築で縁側や広縁の床下を開放する場合等で床組に半足固めを用いられていることもある。

足固めは、足許をつないで固め(固定)ると同時に床の荷重を受けるものであるが、昨今は、布基礎に土台をボルト締めとして固定する構造工法が主流となって、足固め材を使用することが少なくなった。

### ● 燧土台 (ひうちどだい)

軸組み(垂直グループ)立面的には、筋違・方杖などを(バランスよく)平等的に使用している。床組み(水平グループ)平面的には燧材を使用し、土台仕口部位を変位防止のため三角状を多く形成するように心がけ、鋸・ボルト(ユークボルト)・金物等を使用し十分に緊結し、構架構造がいろいろの外力を受けても変形変位しないように、(また垂直グループを保護する)することがたいせつである。

1階床組に燧土台を架設する。断面寸法は土台断面と同じ断面か、ひとサイズ小さい位の断面寸法とし、燧土台の数量(本数)の目安として、床組構造によるが、床組面積(土間部分を除く)・(1間×1間を1坪と換算する)、1坪当り、9本～7本を目やすとし、偶数本数とすること。

★ 1本拾いでは必ず1本の必要長さど数量を記入する事。

### ● ひうち板

1階床組(土台)部分で土間部分が多い場合や、倉庫(納戸)や作業場で土間仕上の建物等で燧土台取付により使用上支障のある場合等にひうち板を取付ける場合がある。よく化粧材として使用される。

ひうち板の厚さは土台成の $\frac{1}{3}$ 以上かつ45mm(1寸5分)以上として、幅は360mm(1尺2寸)以上とし長さは幅の3倍以上とする。取付けは土台成の中ほどを欠き込みひうち板を取付ける。

★ 踏台や物置台として使用することが多い。

### ● 大引 (おおびき)

1階床(各部屋)の荷重(積載荷重)を受け持つ部材である。床組構造によって、大引の間隔や床束の間隔により各部材の断面寸法が決められる。一般的な木造住宅では大引間隔は、.5間間隔(床束間隔も同じ)で大引の断面寸法は土台と同じ寸法かひとサイズ落ち程度の断面寸法を使用する例が多い。

○ 大引の上端は荒鉋削りして陸(ろく)を直して使用すること。

大引はたれ木にして架設すること。～ 木材の背を下にして架設すると木材のくせにより大引の浮きあがりがない。

大引の方向は床根太と直角方向に架設する。～ (作図で床板張り方向を決定すること)、これに基づき床板張り方向と同じ方向に架設する。

★ 大引に直接床板張り(俗に大引張りという)の場合は大引間隔を600mm(2尺)位とし床板厚さ24mm(8分)以上とし幅も広幅を使用する。